

保健学科放射線技術科学専攻カリキュラムマップ

凡例	科目区分	基幹教育必修	専攻必修	専攻選択	医療系基礎	卒業研究
(再掲は薄色表示)		基幹教育必修	専攻必修	専攻選択	医療系基礎	卒業研究

選択科目 医療系基礎

学年	学修目標	1年生				2年生				3年生				4年生					
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
		春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期		
D. 実証	診療放射線技術師としての基本的な実践能力を身に付ける。																	臨床実習	
	診療放射線技術師の責任及び業務の範囲を理解し、感染管理及び医療安全に配慮して、造影剤の投与など適切に検査に伴う行為ができる。																	インフォームドコンセント	
	施設における放射線部門の運営に関する知識をもち、問題点の分析を行うことができる。																	医療安全学II	
	医療チームの一員として責任と自覚をもつ。																	放射線画像技術学実習	
	被験者及び患者への適切な対応ができる。																	臨床解剖生理学	
C-2. 評価・創造	科学的知識や方法論の体系的な理解に基づき、論理的に思考し、研究課題を解決することができる。																	卒業研究	
	基礎医療統計																		
C-1. 適用・分析	各種医用画像の処理技術を理解して分析できる。																	医用画像情報学実習	
	放射線治療計画を立案し、その結果を分析し解釈できる。																	医用画像評価学	
	放射線治療技術II																	放射線治療技術学II	
B. 知識・理解	各種画像診断・核医学検査の結果を分析し解釈できる。																	放射線治療技術学実習	
	放射線治療計画を立案し、その結果を分析し解釈できる。																	核医学検査II	
	各種画像診断・核医学検査の結果を分析し解釈できる。																	実践画像技術学	
	造影剤の血管内投与や下部消化管の検査に対応して、病態、解剖及び薬理について、系統立てて理解して、説明できる。																	臨床解剖生理学	
	放射線などの安全な取扱いと関係法規及び保健医療現場における安全管理の知識や技術について理解して、説明できる。																	医療安全学I	
	画像解析、評価、処理及び医療情報システムについて理解して、説明できる。																	コンピュータプログラミング入門	
	医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解して、説明できる。																	医用画像情報学I	
	放射線治療の原理及び治療装置の構成、動作原理及び保守管理法を理解し、放射線治療に必要な知識・技術及び治療計画について理解して、説明できる。																	医用画像情報学II	
	各種画像診断・核医学検査における装置の構成、動作原理及び保守管理法を理解し、撮影・撮像に必要な知識・技術について理解して、説明できる。																	医用画像情報学実習	
	保健・医療・福祉における放射線の安全な利用と患者経過に必要な基礎知識について理解して、説明できる。																	放射線情報学実習	
	地域社会における公衆衛生について理解して、説明できる。																	放射線情報学II	
	保健・医療・福祉における理工学及び情報科学の基礎知識について理解して、説明できる。																	放射線情報学実習	
	人体の構造と機能及び疾病について系統立てて理解して、説明できる。																	放射線情報学II	
	A. 主体的な学び・協働	A-3. (異文化理解・表現) アジアをはじめとする異文化に関心を持ち、国際化及び情報化社会に対応することができる。																	国際保健と医療
		A-2. (協働) 多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。																	国際保健と医療
A-1. (主体的な学び) 深い専門的知識と豊かな教養、幅広い人間性、高い倫理観を基盤として、生命の尊厳や人への理解を深め、自ら問題を見出し、科学的・論理的・創造的・批判的に吟味・検討することができる。																		国際保健と医療	
文系ディシプリン科目																		国際保健と医療	
理系ディシプリン科目																		国際保健と医療	
健康・スポーツ科目																		国際保健と医療	
総合科目																		国際保健と医療	
文系ディシプリン科目																		国際保健と医療	
理系ディシプリン科目																		国際保健と医療	
健康・スポーツ科目																		国際保健と医療	
総合科目																	国際保健と医療		
サイバーセキュリティ科目																	国際保健と医療		
学修目標	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期			
学年	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期				
学士課程の時期区分	「導入・基礎」期				「発展」期				「統合・実践」期										
学修目標達成度調査 アセスメント・プラン	学修目標達成度調査 (基幹教育科目の学修状況の確認)				学修目標達成度調査 (必修科目の学修状況の確認、知識・能力の習得度の確認)				学修目標達成度調査 (重点科目の学修状況の確認、「臨床実習」の「実習の手引き」の評価、卒業研究の評価)										

学部（放射線技術科学専攻） 学修目標と参照基準（指定規則別表1）対応表

学修目標	文部科学省診療放射線技師養成所指導ガイドライン（指定規則別表1）
A-1. (主体的な学び)	
深い専門的知識と豊かな教養、幅広い人間性、高い倫理観を基盤として、生命の尊厳や人への理解を深め、自ら問題を見出し、科学的・論理的・創造的・批判的に吟味・検討することができる。	科学的・論理的思考力を育て、人間性を磨き、自由で主体的な判断と行動を培う。生命倫理及び人の尊厳を幅広く理解する。 国際化及び情報化社会に対応できる能力を養う。
A-2. (協働)	
多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。	国際化及び情報化社会に対応できる能力を養う。
A-3. (異文化理解・表現)	
アジアをはじめとする異文化に関心を持ち、国際化及び情報化社会に対応することができる。	国際化及び情報化社会に対応できる能力を養う。
B-1. (知識・理解)	
•人体の構造と機能及び疾病について系統立てて理解して、説明できる。	人体の構造と機能及び疾病を系統立てて理解し、関連科目を習得するための基礎能力を養う。
•保健・医療・福祉における理工学及び情報科学の基礎知識について理解して、説明できる	保健・医療・福祉における理工学及び情報科学の基礎知識を習得し、理解する能力を育成する。
•地域社会における公衆衛生について理解して、説明できる。	併せて、地域社会における公衆衛生について理解する。
•保健・医療・福祉における放射線の安全な利用と患者接遇に必要な基礎知識について理解して、説明できる。	保健・医療・福祉における放射線の安全な利用に必要な基礎知識を習得し、理解力、観察力及び判断力を養う。
• 図 種画像診断・核医学検査における装置の構成、動作原理及び保守管理法を理解し、撮影・撮像に必要な知識・技術について理解して、説明できる。	エックス線撮影・エックス線コンピュータ断層撮影・磁気共鳴断層撮影・超音波撮影等における装置の構成、動作原理及び保守管理法を理解し、撮影・撮像に必要な知識・技術及び結果の解析と評価について学習する。 核医学検査の原理及び装置の構成、動作原理及び保守管理法を理解し、核医学検査に必要な知識・技術及び結果の解析と評価について学習する。
• 図 放射線治療の原理及び治療装置の構成、動作原理及び保守管理法を理解し、放射線治療に必要な知識・技術及び治療計画について理解して、説明できる。	放射線治療の原理及び装置の構成、動作原理及び保守管理法を理解し、放射線治療に必要な知識・技術及び治療計画の解析と評価について学習する。
•医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解して、説明できる。	医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理及び医療情報システムの知識を学習する。
• 図 画像解析、評価、処理及び医療情報システムについて理解して、説明できる。	
• 図 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術について理解して、説明できる。	放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を学習し、問題解決能力を養う。
•造影剤の血管内投与や下部消化管の検査に対応して、病態、解剖及び薬理について、系統立てて理解して、説明できる。	診療放射線技師の責任及び業務の範囲を理解し、感染管理及び医療安全に配慮して、造影剤の投与など適切に検査に伴う行為ができる能力を身につける。
C-1. (適用・分析)	
•各種画像診断・核医学検査の結果を分析し解釈できる。	エックス線撮影・エックス線コンピュータ断層撮影・磁気共鳴断層撮影・超音波撮影等における装置の構成、動作原理及び保守管理法を理解し、撮影・撮像に必要な知識・技術及び結果の解析と評価について学習する。 核医学検査の原理及び装置の構成、動作原理及び保守管理法を理解し、核医学検査に必要な知識・技術及び結果の解析と評価について学習する。
• 図 放射線治療計画を立案し、その結果を分析し解釈できる。	放射線治療の原理及び装置の構成、動作原理及び保守管理法を理解し、放射線治療に必要な知識・技術及び治療計画の解析と評価について学習する。
•各種医用画像の処理技術を理解して分析できる。	医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理及び医療情報システムの知識を学習する。
C-2. (評価・創造)	
• 図 学的知識や方法論の体系的な理解に基づき、論理的に思考し、研究課題を解決することができる。	これまでに養った科学的・論理的思考力を、未知の研究課題に活かす能力を身につける。
D-1. (実践)	
•診療放射線技師の責任及び業務の範囲を理解し、感染管理及び医療安全に配慮して、造影剤の投与など検査に伴う適切な行為ができる。	診療放射線技師の責任及び業務の範囲を理解し、感染管理及び医療安全に配慮して、造影剤の投与など適切に検査に伴う行為ができる能力を身につける。
•施設における放射線部門の運営に関する知識をもち、問題点の分析を行うことができる。	診療放射線技師としての基本的な実践能力を身に付け、併せて、施設における放射線部門の運営に関する知識・分析力等を養うとともに、被験者及び患者への適切な対応を学ぶ。
•医療チームの一員として責任と自覚をもつ。	医療チームの一員として責任と自覚を養う。
•被験者及び患者への適切な対応ができる。	患者接遇の基礎能力を養う。
• 図 造影剤の投与に伴う危険因子を認識し、特にアナフィラキシーなど重篤な合併症の発生時に適切に対処できる。	造影剤の投与に伴う危険因子を認識し、特にアナフィラキシーなど重篤な合併症の発生時に適切に対処するため、速やかに医師等に連絡し、自らが一次救命処置(Basic Life Support : BLS)を適切に実施できる能力を身につける。